

平成 27 年度
第 2 回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

1. 日 時：平成 27 年 5 月 29 日（金） 16:00～17:00
2. 場 所：西日本ビル(福岡市中央区天神1丁目10番17号)
3. 出席者：外井哲志、橋本信幸、吉武哲信、有馬隆文、伊東博史、内田智昭、嶋本寛、趙世晨、堤昌文、永村景子、日暮光一郎、箕浦永子、山下三平、吉城秀治 以上 14 名

4. 議 事

1. 前回幹事会議事録の確認
2. 九州支部総会報告（研究発表会実施報告、課題等）
3. 平成27年度顧問幹事(案)
4. 支部幹事会内の役割分担
5. 平成27年度年間スケジュール
6. 平成27年度幹事会議題
7. 「支部だより(6月号)」の確認(報告)
8. 名義後援(審議1件、報告1件)
9. 会計報告
10. 理事会・定時総会報告（4月14日、5月22日分）
11. その他

5. 議事内容

1. 前回議事録の確認（吉武）
 - ・事前メール審議にもとづき、平成 27 年 4 月 4 日（土）開催分の第 1 回会議内容を確認した。
2. 九州支部総会報告（研究発表会実施報告、課題等）（吉城）
 - ・別途資料に基づき、研究発表会の実施が報告された。
 - ・口頭発表の応募が多かった場合、発表時間の確保が課題となる。
 - ・今年度は試行で実施したが、次年度からは本格実施となることが総会で議決されている。
 - ・当日のスケジュールの組み替えなどが可能か、検討が必要であろう。
 - ・PS の応募が増えすぎた場合の採点が難しい。全員が全作品を審査するのではなく、グルーピング等の対応を今後検討する。
3. 平成 27 年度顧問幹事(案)（吉武）
 - ・資料に基づいて説明・確認された。
4. 支部幹事会内の役割分担（吉武）
 - ・資料に基づいて説明・確認された。
 - ・支部主催シンポジウムは、今年度は宮崎大会での WS 等の実施に変えるかどうか、検討する。→都市構造 PDCA 研究分科会に関して、宮崎大会にて WS を実施したい。セッションや会場を押さえるには、どのタイミングでどんな手続きがあるか、研究分科会メンバーで検討している→事務局の吉田氏に有馬幹事から問い合わせしてみる。
 - ・CPD は主催者の証明書フォーマット作成が必要かもしれない。
 - ・支部活動の検討は、今年度は新たな活動内容は検討せず、近年新規に起ち上げた活動を充実させる。

- ・中四国支部連携は最近活動がないため、担当は置くがしばし休眠状態とする。
 - ・支部情報担当は、H25 年度に支部 HP の本部 HP への統合問題があった際に多少の動きがあったが、全く動いていない。担当は一応、置いておく。
 - ・まちづくり賞は軌道に乗るまでは引続き趙幹事・橋本幹事を担当とする。
5. 平成 27 年度年間スケジュール(吉武)
- ・資料に基づいて、説明・確認された。
 - ・11 月は宮崎大会に合わせて実施するため、日程が多少前後する可能性もある。
 - ・九州まちづくり賞スケジュールは研究分科会に合わせて修正してほしい。
6. 平成 27 年度幹事会議題(吉武)
- ・資料に基づいて、説明・確認された。
 - ・来年度の総会日程は、4 月 2 日(土)を第一候補とする。会場は天神・博多を含め検討する。
7. 「支部だより(6 月号)」の確認(報告)(永村)
- ・資料に基づいて、学会誌 6 月号掲載予定の説明、確認された。
8. 名義後援(審議 1 件、報告 1 件)(永村)
- ・2015 年アジア都市景観賞の名義後援について審議・承認された。
 - ・アジア景観デザイン学会の名義後援について、メール審議にて承認されたことを依頼者に承諾回答したことが報告された。
9. 会計報告
- ・資料に基づいて、4 月末時点での支部会計報告がなされた。
10. 理事会・定時総会報告(4 月 14 日、5 月 22 日分)
- ・資料に基づいて、本部理事会・総会について説明・報告がなされた。
11. その他(平成 27 年度学術研究発表会(宮崎開催)について)
- ・学会前後にフィールドトリップを企画。11/7 に日向市駅、11/9 に堀川運河整備プロジェクト、油津商店街再生プロジェクトの見学会を企画している。詳細は学会誌 6 月号を参照してほしい。
 - ・幹事会は 11 月 8 日(日)のセッション終了後に開催することとする。
 - ・今年度の都市計画サロンについて、7 月の第 1 回目は九州大学の馬奈木先生には外井先生から依頼する。その他候補としては、長崎の論文賞に関して、九州内の国立大学の新学部構想について、など。引き続き、候補があれば情報提供願いたい。
 - ・都市構造 PDCA は宮崎大会で実施できなかった場合は、2~3 月にサロン等で報告の場を設ける。
 - ・学術委員会には、論文が例年よりは応募が多い。近年の論文採択率は 5~6 割程度である。

以上